



Via Latina 22

2020年2月 287号

総本部よりのお知らせーマリア会

インド従属地区での終生誓願式



1月8日、バンガロールのデーパハリで、マリア会員、Jerin Pananthanam士、Telesphore Soreng士 そしてRayappan B.士（上の写真左より）が終生誓願を宣立しました。アメリカ管区霊生補佐、Timothy Kenney師がミサの中で誓願式を執り行い、誓願を受け入れました。アメリカ管区教育補佐、Jesse O'Neill士が説教を行いました。マリア会ブラザー、シスター、友人そして家族のメンバーがこの誓願式に出席しました。

チリでの終生誓願式



Daniel Orellana士, SM, とチリ地区長José María Arnaiz師, SM

1月22日、福者ギョーム・ヨゼフ・シャミナード師の祝日に、チリ地区はDaniel Alejandro Orellana Galleguillos士の終生誓願式を執り行いました。誓願式はチリ、サンチアゴの大天使聖ミカエル小教区にて行われました。地区の会員たちに加えDanielの家族メンバーが誓願式に出席しました。マリアニスト家族の多くのメンバー、そして地区で活動しているスタッフも誓願式に出席しました。この誓願式の後、聖ミカエル小教区立学校のホールにて祝賀会が開かれました。

私たちはDanielの終生の奉獻について神に感謝し、彼の奉獻の道に引き続き同伴して下さるよう聖母マリアをお願いします。

ローマで4名の神学生の助祭叙階式



(左より): Renny Markose, SM, Élie Oka, SM, Michael Chiuri, SM と Brandon Paluch, SM

2020年1月21日、Via Latina 22の柱の聖母聖堂にて、現在ローマのシャミナード国際神学校で学んでいる4名のマリア会修道者がローマ法王庁教理省長官、イエズス会Luis Ladaria枢機卿によって助祭に叙階されました。

Brandon Mark Paluch(US), Kouakou Élie Oka(FR-IV), Michael Macharia Chiuri(US), そしてRenny Markose Puthankudy(US-IN)この4名が多くのマリア会の兄弟たち、FMIのシスターたち、現地の信徒共同体のメンバー、家族と友人たち、そして幾人かの彼らの先生等の見守る中、神学校校長、Francisco Canseco師によって枢機卿に紹介されました。Ladaria枢機卿は、叙階の祝福のために両手を彼らの頭にのせる前に、奉仕の生活を喜んで受け入れ、今日の世界で聖霊の現存を証しするよう助祭に叙階される四人を励ましました。叙階された後、新任助祭たちは初めてミサ聖祭で奉仕しました。

叙階式はYouTubeで世界に生放送されました。式典に続いて出席者はVia Latinaでの祝賀会に招かれました。4名の新任助祭は6月までそれぞれの勉学を続けます。その後、彼らは自分たちの行政単位に戻り、司祭職の養成を続け、やがて司祭叙階を迎えます。私たちは彼らにお祝いを申し上げるとともに、彼らの人生の重要な過程を通じて祈りを捧げます、そして全マリア会のためにも。



尊者Domingo Lazaro師の1周年記念



2019年5月13日、教皇フランシスの認可を得て、バチカン列聖省はDomingo Lazaro師を彼の枢要で神学的徳の英雄的实践を認め、尊者として宣告しました。

ドミンゴ師は1877年5月10日、スペインのサン・アドリアン・デ・ファロスで生まれ、1935年2月22日スペインのマドリードで死去しました。

今年、2020年、私たちはドミンゴ・ラザロ師を尊者として初め

てお祝いします。

ドミンゴ師は、自分の聖母マリアへの奉獻を神の賜物と考えていたマリア会修道者でした。模範的な司祭で、靈的指導者として高名であった彼は、自分の司祭職を若者たちの福音化とスペイン人修道者の指導に捧げました。

彼は1916年、39才の若さで管区長になりました。ドミンゴ師は高い知性と鋭い分析力で人々に注目されました。特に、総長評議委員会は彼の判断力と道德規範とを評価しました。スペイン文化と政治的背景において、またマリアニスト学校の伝統において、ドミンゴ師は彼の膨大な教育学の知識という長所によって、カトリック学校を若者のキリスト教的育成のため見事な手段、すなわち、彼の司祭としての宣教活動を特定する目標としました。

総本部は2月のこの月間に、またマリア会による最初の学校開設200周年という背景で、皆さんが特別に尊者ドミンゴ・ラザロ師の遺徳を称えるよう願っています。この意向をもって、私たちは2月22日(土)にカトリック教育と若者への福音宣教のためにミサ聖祭を捧げます。

カリスマプログラム 6



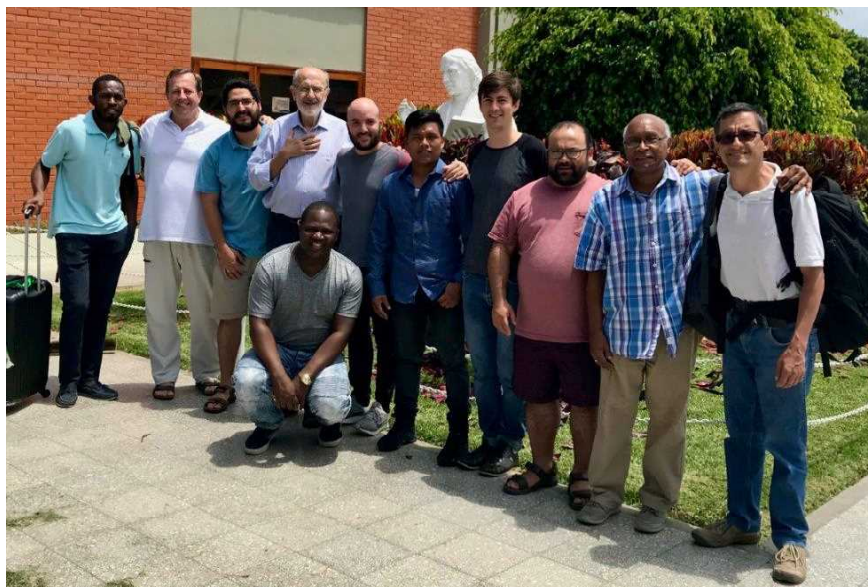
2019年12月14日から2020年1月4日まで、アフリカマリアニスト評議会（CAM）が準備した“カリスマVI”養成会議がケニアのナイロビで開催されました。これらの養成会議はアフリカ、アジアの有期誓願者のためになるよう計画されています。今回、この会議に46名の修道者が参加しました：コートジボワール5名、コンゴ4名、トーゴ5名、東アフリカ28名、インド3名そして韓国1名です。それぞれの行政単位からの先輩会員たちがプログラムを運営する仕事を分かちあいました。ある人たちは準備チームを構成し、他の人たちは通訳として働きました。

この会議のテーマは“死なない人”であり、このテーマは前の総会の取り組みに由来します。

USA、メリバ、フランス、スペインの管区の数名の会員たち、およびマリア会教育局長Maximin Magnan士、霊生局長Pablo Rambaud師、FMI総長シスターFranca Zontaが話題を提供しました。

これは多くの発表と分かち合いを伴う3週間に渡る密度の濃い養成会議でした。加えて、各国の文化紹介の夕べ、ケニアの美しい自然を楽しむ遠足・・・、そしてもちろん、祈りの時間がありました。この会議の終わりに、2日間の黙想がありました。

ラテンアメリカの有期誓願者会議



(左より): Taisson de Jesús Domínguez, SM, マリア会霊生局長Pablo Rambaud師, Daniel Orellana, SM, Manuel Madueño師, SM, Wilson Rentería, SM, Emiliano Guaragna, SM, Silvio Panesso, SM, Gustavo Pollon, SM, Carlos Espinoza, SM, ペルー地区長Douglas Roper士, SM, and José Luis Morales, SM

2020年1月4日から18日にかけて、ラテンアメリカの有期誓願者会議がペルーのオトゥスコとトルヒーヨで行われました。7名の修道者たちが参加しました：Emiliano Guaragna士(アルゼンチン)、Carlos Espinoza士とDaniel Orellana士(チリ)、Gustavo Pollon士(ブラジルスぺイン)、そしてWilson Rentería士、Taisson de Jesús Domínguez士、Silvio Panesso士(コロンビア・エクアドル)の7名です。

会議のリーダーはManuel Madueño師(アルゼンチン)とJosé Luis Morales士(コロンビア・エクアドル)でした。最後の週にDouglas Roper士(ペルー)とPablo Rambaud師(総本部)が加わりました。

会議の前半は宣教活動を体験しました。参加者たちはラ・シエラ・デ・ラ・リベルタードのオトゥスコ地域の宣教活動チームに加わりました。彼らはオトゥスコの近くの村に住み、

その地域の住民たちと信仰と生活を分かち合っています。トルヒーヨでは、1月13日から18日まで、共通に関心のあるテーマ：すなわちカリスマ、私たちの共同体生活、誓願とわたしたちの使命に関して、会議、祈りそしてグループの考察に当てられました。プログラムは午前中の黙想で終了しました。

トーゴの私たちの教育事業に従事するスタッフの養成



前の総会（No.8と59）の呼びかけに応えるかたちで、トーゴ地区はその様々な活動のスタッフのための養成プログラムを開始しています。毎年、3つのセッションが設けられます。トーゴ地区の3つの教育事業で働く120名の人々がお互いに知り合いになるために出会います。また彼らは私たちのカリスマの中心の要素に馴染む機会を持ちます。

一年前の最初の会議に既に参加していたマリア会教育局長、Maximin Magnan士は、この第4回目の会議で彼らと共に研修するために来ました。参加者たちは出会いを体験し、その体験を通して、彼らは深い理解と熱烈な興味をもって私たちマリアニスト・カリスマの宝を発見しました。また彼らはこのカリスマと、彼らが非常に情熱を燃やしているこの宣教活動への自分たちの貢献を最大限に活用する方法に対して、自分たちは献身することも表明しました。同時に、参加者自身も人間的、霊的両面で成長することが出来ました。

ローマでの例年の創立者たちの祝い



総長André-Joseph Fétis師, SM(中央)マリアニスト兄弟たちとともに

マリアニストが存在する世界の他の多くの場所のように、私たちはマリアニスト創立者、福者マリー・ド・ラ・コンセプションと福者ギョーム・ヨゼフ・シャミナードの祝日を祝うので、1月はローマで非常に特別な月です。ローマのマリアニスト家族はこの時期に常に一緒に集まり、私たちが頂いたカリスマを一緒にお祝いし、また魂の救いというマリアの使命への私たちの契約を更新します。

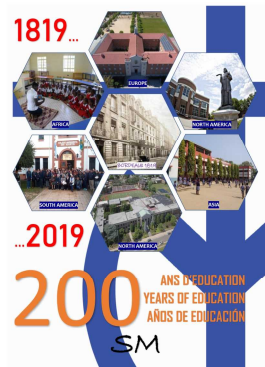
今年は1月19日、日曜日に、イタリアのFMI共同体がそこでの丸1日の行事を主催しました。両総本部のメンバー、国際神学校、そしてイタリアのSMとFMIの共同体はローマとカンポバッソの信徒マリアニスト共同体（MLC）と共にこの行事に参加しました。この日はマリア会総長André-Joseph Fétis師が司式し説教を行うミサ聖祭の儀で始まりました。その後、私たちの創立者から頂いたカリスマについての考察、提示がなされました。次に、全員で簡素だが美味しい食事を頂きました。その後、彼らはローマのマリアニスト小教区の婦人グループのコンサートと、カンポバッソのMLCによるトランケレオンの生涯についてのミュージカル劇を楽しみました。

この日は、私たちが創立者から頂いたもの、そして今日の宣教活動において彼らの遺産を継続しつつ私たちが与えるようにと呼びかけられている賜物、を真に祝う一日でした。



マリア会の教育への参入200年祭に関する反響

2019年11月3日はマリア会の教育への参入200年記念の公式お祝い日でした。既に依頼したように、幾つかの行政単位はこの機会のために準備した種々活動について報告を継続して送付しています。このLINKを通して、皆さんは私たちが受け取ったばかりの最新の反響を見ることが出来ます。特に、オーストリア、東アフリカ、スペイン、フランス、USAのニュースが見られます。



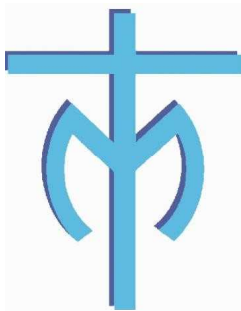
教育プログラムの更新と継続

2020	AMANECER TROSIEME AGE THRID AGE (70 +)
	Español y portugués 10 agosto – 9 octubre (8 semanas) MANZIANA
	Français 3 septembre – 31 octobre (8 semaines) ROME
	English 20 October – 15 December (8 weeks) MANZIANA

数年来、私たちはローマやマンシアナのマリスト会ブラザーによって行われているいくつかの養成プログラムに参加する機会がありました。近年、何人かのマリア会員がこのプログラムに参加し、彼らはその経験を大変前向きに評価しました。彼らは養成の内容、参加者の間の兄弟愛、そして彼ら自身の修道生活の刷新の機会について好意的に話しています。

これらのプログラムの日程は2020年用に設定されています。このプログラムは70才以上のの人たちに向けたものです。Robert Witwicki師がこれらのプログラムに向けたマリスト会ブラザーとの調整役です。興味ある人は自分の行政単位の霊生補佐に連絡してください。その後、霊生補佐がWitwicki師と調整します。

ノバナのお願い



最近、脳腫瘍の手術を受けたエマヌエルの治癒のため福者シャミナードへの祈りのノバナの依頼を受けました。エマヌエルは46才で、子供2人の家族の父であり、マリア会総本部に勤めるスタッフの兄弟です。この祈りの意向はシャミナード国際神学校校長Francisco Canseco師から依頼されました。

最近の総本部通信

- 訃報：1－3号
- 1月15日：2019－2020年度、マリア会教育事業要覧に関する情報要請の書簡がら3か国語にて本部教育局長Maximin Magnan士から全教育補佐に送付
- 1月30日：マリア会3部門# 153 2020年マリアニスト連帯基金とマリアニスト養成基金の資金配分について3か国語にて本部財務局長Michael McAward士から全マリア会修道者宛に送付送付

総本部日程

- 2月9日～26日：総長評議員会全員のコートジボワール従属地区(フランス) 訪問
- 2月26日～3月8日：総長評議員会全員のコンゴブラザビル特別地区(フランス) 訪問

メールアドレス変更

- Desire Mpoya士 (EA): mpoyaprecious@gmail.com